

第 62 回入学式 学長式辞

2016. 4. 5 学長 西内みなみ

第 62 回生の皆様、桜の聖母短期大学へのご入学おめでとうございます。

1955 年に開学した本学は、皆様と共に、62 年目の春を迎えています。満開の桜と聖母マリアが、皆様のご入学を心から歓迎しています。

まず、皆様が、桜の聖母短期大学で学ぶことを選択して下さったことに、心から感謝します。

先の震災以来、多くの若い方々が福島を去る中、皆様は、ここで学ぼうと決意して下さいました。震災から 6 年目、181 名という最大数の入学者をお迎えできることは、震災後も、この福島で学校を続け来た私たちにとって、奇跡です。多くの選択肢の中から、桜の聖母短期大学を皆様が選んで下さったおかげです。本当に、ありがとうございます。

先ほど、朗読された聖書のみ言葉、初めてお聞きになった方も多いでしょう。その時代背景やキリスト教の価値観については、授業でしっかりと学んで頂きます。ただ、聖書に書かれた昔話ではなくそのみ言葉は、今も生きて、この桜の聖母短期大学で働いている事を実感して下さい。

聖書のみ言葉に戻ります。聖書に描かれているのは、聖母マリアが、遠い親戚のエリサベトをご訪問する場面です。「ご訪問の聖母マリア」は、桜の聖母短期大学にとって、最も大切にしている「建学の精神」を表わしたシンボルです。

聖母マリアは、たぶん 10 代でしたから、皆様と同じ年ごろのおとめでした。赤ちゃんを授かり妊娠していました。自分も妊娠していて、たいへんであったにもかかわらず、たぶん 40 代くらいの親戚のエリサベトが高齢で妊娠したと聞き、心配して、遠く離れた山里までお見舞いに行きました。そして、2 人が出会った場面、この聖書の場面

が、短期大学の正面玄関にある美しいステンドグラスに描かれています。

その時、聖母マリアのお腹には、イエスキリストが宿っていました。聖エリサベトのお腹には、洗礼者ヨハネが宿っていて、聖母マリアの声を聞いたときに、胎内のお子が喜んでおどつたと聖書にはあります。聖書のなかで、洗礼者ヨハネは、やがて、イエスキリストに洗礼を授ける方です。

このみ言葉に描かれた場面は、今、まさに、私たち教職員の心境です。

保護者の皆様の胎内に宿った新入生の皆様に私たち教職員の胎内にある桜の聖母のミッションが喜び踊っています。

世界に一つしかない美しいステンドグラスに描かれた「ご訪問の聖母マリア」の精神、それは、心配な方がいたら、妊娠している我が身を省みず、ご訪問する、この愛と奉仕に生きる聖母マリアの精神、そして、それに倣って 360 年前、日本は、まだ江戸時代です。

フランスから、大西洋を船で 2, 3 か月もかけて、未開地のカナダに、出かけて行って、多くの子どもたちや大人たちに教育を授け、愛と奉仕に生きた聖マルグリットブルジョワの精神です。

聖マルグリットブルジョワの設立した修道会は「コングレガシオン・ド・ノートルダム」聖母マリアの修道会といえます。この修道会は、未開地だったカナダの発展に大きく貢献しました。聖マルグリットブルジョワは、カナダの方なら誰でも知っているシスターであり、聖人であり、カナダでは建国の母として敬愛されています。そして、何よりも、優れた教師でした。

カナダの建国に大きな貢献をした聖マルグリットブルジョワの修道会が、1932 年、今から 84 年前、5 人のシスター達を日本に派遣して下さいました。それが、東京でも、仙台でもなく、この私たちの街、福島市に、です。これも奇跡です。

福島市に修道院を開設され、まず、幼稚園を、そしてその子たちが進学する小学校を、中学校

を、高等学校を次々と開設し、その高校生たちに高等教育を受けさせたいという願いから、62年前、1955年に開設された学校が、この桜の聖母短期大学です。

カナダの修道会から、派遣されたシスター達も、福島の子どもたちや大人たちのために、愛と奉仕に生きて下さいました。

その歴史と伝統によって、今日、私たちは、62回生の皆様をお迎えする事ができるのです。

よく学生に聞かれます。シスター達は、結婚していないのですかと。

そうです。皆様よくご存じのマザーテレサと同じように、カトリックのシスター達は、ご自身の生涯を、キリストの愛に捧げる事を決意された方々です。私のように、結婚もし、子どもも授かり、自宅などの私有財産を持つ、さらにお給料を頂くという私的な人生の全てを、修道会に捧げて生きている方々です。シスター達の教育活動こそ、無償の愛と奉仕なのです。

まさに、シスターお一人ひとりの生き方が、愛と奉仕に生きる私たちのモデルです。

桜の聖母短期大学は、こうしたシスター達の我が身を神様に差し出された貢献によって、設立された学校なのです。

私は、桜の聖母短期大学が開学して以来、初めて、シスターでない者が、学長として任命されました。新入生の皆様と同じ初心者です。皆様同様、不安と緊張でいっぱいです。

しかし、私の至らなさや弱さの中に、いつも共にいて下さるイエス様、そして、どんな困難な時も、「私は決してあなたを見捨てません」と、聖マルグリットブールジョワに語られた、聖母マリアの言葉を信じる者です。

私達が出来ることはささやかな事です。しかし、私達を通して働かれる神様のみ旨は、計り知れなく偉大なのです。

覚えていて下さい。

桜の聖母短期大学の教職員は、いつも、必要とされているところにはどこにでもいく、本学の「建学の精神」に謳われている「愛と奉仕に生きる」聖母マリアや聖マルグリットブールジョワのようでありたいと努めています。

そして、2年間で皆様を、思いやりと行動力のある女性、compassionのある smart woman「愛と奉仕に生きる良き社会人」として社会に送り出そうと、私たちは、最善を尽くす事を、新入生の皆様にお誓いします。

そのために、様々な授業や学校行事を準備しています。本学の授業は、教室で座って講義を受けるだけでなく、「ご訪問の聖母マリア」のように、創設者聖マルグリットブールジョワのように、様々な地域や海外にも出かけていきます。教室と同じく、地域や世界が、皆様の学びの場です。アクティブに学びあいましょう。このような学びを通して、皆様は、1万人を超える卒業生がそうであるように、必ず「愛と奉仕に生きる良き社会人」として、美しく成長されます。

保護者の皆様、高いところから、たいへん恐縮です。お嬢様の選択を尊重して頂き、多大なるご支援を賜りました保護者の皆様に、深く感謝します。教職員一同、お嬢様お一人ひとりを大切に支援させて頂くことをお誓い申し上げます。

また、ご多忙中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、兼任教員の皆様にも御礼申し上げます。桜の聖母短期大学のこの歴史と伝統を大切に継続し、さらにより良い教育活動をしていくことを、お誓い申し上げます。

さあ、62回生である新入生の皆様皆様と共にしっかりと学びたくて、ワクワクしている教職員がいます。

皆様と共に、様々な活動をたっぷりとしたくてウキウキしているビックシスターである2年生がいます。

2年間は、瞬く間に過ぎ去ります。さらに短く感じられるほどに充実させましょう。

あなたの夢をここで実現し、あなたがなりたい自分になることを、私たち教職員一同は、いつも傍らにいて支援します。

62回生の皆様とそのご家族に、そしてこの桜の聖母短期大学に集うお一人ひとりに、

主イエスキリストと聖母マリアの豊かな祝福をお祈りして、式辞といたします。